

**科学研究費助成事業 研究成果報告書**

平成 29 年 6 月 8 日現在

機関番号：14301

研究種目：挑戦的萌芽研究

研究期間：2015～2016

課題番号：15K14047

研究課題名（和文）ナラティブ型公共コミュニケーションの技術開発とその適用可能性に関する研究

研究課題名（英文）Research on technological development of narrative communication in public and its applicability

研究代表者

藤井 聡（FUJII, Satoshi）

京都大学・工学研究科・教授

研究者番号：80252469

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,000,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、ナラティブ（物語）型言語活動の定義を理論的に明確化し、公共コミュニケーションの領域にナラティブ型コミュニケーションを適用し、その効果を実証的に検証することを目的とした。ナラティブ論に関する分野横断的レビューを行うことで、時系列で出来事が整理されていること（「時間性」）と、出来事に登場する主体の意図が明確に描写されていること（「主体意図性」）の二つを、ナラティブの主要要素として抽出できた。また、その要素に基づいて、物語型シナリオを作成し、Webアンケートを通じたシナリオ実験を行ったところ、ナラティブ型コミュニケーションの有効性が確認された。

研究成果の概要（英文）：The purpose of this research is to clarify theoretically the definition of literal activity in narrative form, to apply the narrative communication into the realm of public communication, and to verify its effects empirically. Through the reviews of various fields of research, two main factors of narrative have been extracted: "temporality", which means the events are sorted in chronological order, and "intentionality of actors", which means the intentions of actors in these events are clearly depicted. We performed a scenario experiment with narrative scenarios designed with these factors. The result suggested the effectiveness of narrative communication.

研究分野：国土計画

キーワード：ナラティブ ナラティブ型コミュニケーション 公共政策

### 1. 研究開始当初の背景

近年、リスクコミュニケーションの分野をはじめとして、「知識」を与えることによって人々の態度や行動変容を促すという従来型のコミュニケーションの限界が指摘されはじめている<sup>1)</sup>。一方、心理学、社会学、経営学をはじめとする人文社会科学諸分野において、「ナラティブ(物語)型の言語情報」が人々の「関心の強化」、「批判的思考の抑制」、「記憶・想起の向上」、「思い込みの除去」といった様々な効果を有することが実証されつつあり、人文社会科学諸分野を中心として、ナラティブ(物語)型の情報提示が、人間の「記憶」や「思考」などのパフォーマンスを向上させるといった効果が徐々に明らかにされてきている。

しかしながら、こうした「ナラティブ(物語)」の効果は、合意形成手法の一つであるパブリックインヴォルブメント(以下、PI)や地域活力増進技術の一つであるモビリティ・マネジメント(MM)等の「公共コミュニケーション」の領域においては、ほとんど活用されていないのが、実情である。また、「ナラティブ」の概念を、社会的要請が極めて高い合意形成をはじめとする「公共コミュニケーション」の領域に適用し、その効果を実証的に検証した研究は見当たらない<sup>2)</sup>。

### 2. 研究の目的

そこで、本研究は 1) ナラティブ(物語)型言語活動の定義を理論的に明確化し、2) 公共コミュニケーションの領域にナラティブ型コミュニケーションを適用し、その効果を実証的に検証することを目的とした。

### 3. 研究の方法

- 1) ナラティブ論に関する分野横断的レビューを行い、ナラティブの要素として想定される候補を抽出する。
- 2) ナラティブの要素を盛り込んだナラティブ型シナリオを作成し、ナラティブ型コミュニケーションの効果を、Web アンケートを通じたシナリオ実験により検証する。ただし、その効果は個人の物語に対する志向性に影響を受けるものと考えられるため、検証するにあたって、他人を物語に引き込む能力である「物語誘引力」、物事を物語的に把握する能力である「物語感得力」、物語的エピソードを共有することで社会的な関係を構築・維持する傾向である「物語共有傾向」の下位尺度からなる「物語志向性尺度」を受け手の認知的傾向として開発した。〔主な発表論文等：〕

### 4. 研究成果

- 1) ナラティブ(物語)とは何であるかという問いに対する答えは研究者により様々であり、統一的な定義づけはなされていないのが現状だが、「出来事を時系列に並べ

る」という点がナラティブに必須の要素であると指摘している例は多い<sup>3),4),5)</sup>。また、たとえばストーリーグラマーに関するThorndykeの研究<sup>6)</sup>では、ナラティブの最も大きな構成単位は、Settings(状況設定)、Theme(物語全体のテーマ、とくに主人公の目標)、Plot(出来事の配列、筋書き)、Resolution(目標の達成)であるとされており、「目標」の「達成」に向かう構成が物語の典型とされている点が重要である。物語には目標達成型の構成を持たないものも多いという指摘は存在するし<sup>7)</sup>、確かに日常語の中で「物語」と呼ばれているものが、目標達成型のプロットを持つものに限られるとは言えないであろう。しかし少し意味を広げて、「目標」ではなく登場人物の「意図」を中心にプロットが展開されるものとして解釈すると、様々な既往研究との間に整合性を見出すことができる。

たとえば言語理解の研究において、人間がテキストを深く理解する際には「状況モデル」と呼ばれる心的なイメージが構築されるとの主張がある。Zwaan & Radvanskyによると「状況モデル」は「空間」「因果関係」「意図」「主体や対象物の同一性」「時間」という5つの基本的な次元から構成されるとされており<sup>8),9)</sup>、井関・川崎の研究からは、「物語文」の読解においては「説明文」の読解に比べて、「意図性」が状況モデルの構築に大きな役割を果たしていることが示唆されている<sup>10)</sup>。これは、Brunerが、物語とは登場人物の「意図」の変転を取り扱うものであり、意図は他のものに還元して説明することが不可能な根源的な単位であるとして、物語における意図の描写の重要性を強調したことも整合する知見である<sup>11)</sup>。

つまり、これら既往の学説を踏まえると、時系列で出来事が整理されていること(「時間性」と、出来事に登場する主体の意図が明確に描写されていること(「主体意図性」)の二つを、ナラティブの主な要素と定義することができる。〔主な発表論文等：〕

- 2) 前述の定義に基づいて、リニア中央新幹線をテーマに、物語性の強いシナリオと弱いシナリオを作成し、実験を行った。その結果、受け手の物語志向性とシナリオの物語性の組み合わせによって、情報に接触した際の態度の形成・変容に有意な差異が生ずることが明らかになった。また、「物語性」の定義とシナリオ作成方法を明確化したことで、公共政策をめぐるコミュニケーションの実践に物語型情報を応用するための手法に関し、具体性のある示唆が得られた。〔主な発表論文等：〕

また、「高知県黒潮町の防災計画」を題材とする政策シナリオから、前述の物語の定義に基づき、物語型のシナリオと説明文型のシナリオの2種類のシナリオを作成

し、その読了効果を計測する調査を行った。その結果、物語性の強いシナリオに触れることによって、人々の当該テーマに関する人物評価や納得性、関心、自我関与性といった主観的心理が向上する効果を有すること、そして、その過程において、移入という心的プロセスが重要な役割を演じている可能性、さらに、物語化の効果は、「情報や考えを物語化して表現し伝達や説得をする能力・傾向」の高い人々において有効であるという可能性の存在がそれぞれ、実証的に明らかとなった。〔主な発表論文等：〕

さらに、物語型コミュニケーションの効果は、人々の物語志向性の特徴によって異なるという可能性が示唆された。すなわち、他人を物語に引き込む能力としての「物語誘引力」が高い人々においては、公共政策を物語的に伝えることが、当該政策に対する関心や納得感、当事者意識の醸成に有効である可能性、また、物語的エピソードを共有することで社会的な関係を構築・維持する傾向としての「物語共有傾向」が高い人々においては、公共政策を物語的に伝えることが、当該政策に対する関心の醸成に有効である可能性が明らかとなった。一方で、物事を物語的に把握する能力としての「物語感得力」の低い人々においては、公共政策を物語的に伝えた場合、説明文型で伝えた場合、いずれにおいても、政治心理の醸成は期待できないという可能性が実証的に示された。〔主な発表論文等：〕

その他にも、全国のリサーチモニターを対象として、物語が公共政策に対する人々の受容意識に与える影響について検証を行った。その結果、ある物語を支持する人々は、その物語に基づく具体的政策に対して、公共利益を増進し、分配的に公平で、個人の自由を侵害せず、公正なものであると認識する傾向があり、その結果、当該政策を受け入れる傾向にある可能性が示された。このことは、公共政策に対する人々の受容意識の醸成を企図する上で、当該政策の背景にある物語が極めて重要な意味をもつことを示唆するものである。〔主な発表論文等：〕

また、全国の自治体の防災担当部署を対象として、ナラティブ型コミュニケーションの有効性を、アンケート調査を通じて検証した。その結果、防災対策が充実している自治体では、物語型情報の利用が活発な傾向にあることや、物語型情報の利用によって自治体の継続的な防災対策が実現しているという可能性が示唆された。このことは、自治体における防災政策の波及にむけて、ナラティブ型コミュニケーションの活用が有効である可能性を示唆するものといえる。〔主な発表論文等：〕

以上の成果を踏まえると、公共政策における物語の活用可能性として、次のような

ことが考えられる。

第一に、公共政策の必要性を住民に説明する際の例として道路事業を上げると、当該事業効果の説明においては、データやグラフを用いた時間短縮効果や環境負荷の低減等の断片的な情報提供が行われるケースが多いが、このような場合に、それぞれの情報に物語性を持たせた説明を行うことにより、住民により関心や納得感を持ってもらうことができ、活発な議論が可能となり円滑な合意形成がなされる可能性が高まることが期待される。

第二に、本研究における物語型コミュニケーションは、黒潮町のような先進的な防災の取り組みの成功事例を、全国に共有化する際の情報提示の手法として有効であるものと考えられる。この際、住民側だけでなく、政策実行者側も物語描写に触れることが極めて重要な意味をもつものと考えられる。今回の例で見れば、黒潮町に置ける防災の取り組みの物語描写に他の市町村の首長が触れることによって、黒潮町長の防災意識に対する思想を共有することができるものと考えられる。

第三に、物語的な記述を読了することは、土木技術者への知識教育や倫理教育に繋がるとの指摘があり<sup>3)</sup>、本研究において用いられたような物語化の手法を活用できる可能性があるものと考えられる。

#### 参考文献)

1. 吉川肇子：公共コミュニケーション、土木学会誌編集委員会（編）：合意形成総論賛成・各論反対のジレンマ、社団法人土木学会、2004。
2. 川端裕一郎、藤井聡：コミュニケーション形式としての物語に関する研究の系譜と公共政策におけるその活用可能性、土木学会論文集 D3, Vol.70, No.5, pp.1\_123-I\_142, 2014。
3. 野口裕二 編：ナラティブ・アプローチ、勁草書房、2009。
4. Beaugrande, R. D.: The story of grammars and the gramI\_229 mar of stories, Journal of Pragmatics, Vol. 6, Issues 5-6, pp. 383-422, 1982.
5. Labov, W. and Waletzky, J.: Narrative analysis: oral versions of personal experience, Journal of Narrative & Life History, Vol. 7, No. 1-4, pp. 3-38, 1997 (original: 1968).
6. Thorndyke, P. W.: Cognitive structures in comprehension and memory of narrative discourse, Cognitive Psychology, Vol. 9, Issue 1, pp. 77-110, 1977.
7. Matsuyama, U. K.: Can story grammar speak Japanese?, The Reading Teacher, Vol. 36, No. 7, pp. 666-669, 1983.
8. Zwaan, R. A.: The immersed experienter: Toward an embodied theory of language comprehension, In: Ross, B. H. (Ed.): The psychology of learning and motivation: Advances in research and theory, Vol. 44, Elsevier Academic Press, pp. 35-62, 2004.

9. Zwaan, R. A. and Radvansky, G. A.: Situation models in language comprehension and memory, *Psychological Bulletin*, Vol. 123, No. 2, pp. 162-185, 1998.
10. 井関龍太, 川崎恵里子: 物語文と説明文の状況モデルはどのように異なるか: 5つの状況的次元に基づく比較, *教育心理学研究*, Vol. 54, No. 4, pp. 464-475, 2006.
11. Bruner, J.: *Actual Minds, Possible Worlds*, Boston: Harvard University Press, 1986. (ブルーナー, J. (田中一彦 訳): *可能世界の心理*, みすず書房, 1998.)

## 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

### [雑誌論文](計 6 件)

高橋祐貴, 川端祐一郎, 宮川愛由, 藤井聡: 政策情報の物語化が受け手の態度受容に与える効果に関する実証的研究, *土木計画学研究・講演集*, Vol.51, 2015.

高橋祐貴, 川端祐一郎, 宮川愛由, 藤井聡: 物語志向性を考慮した公共政策における物語型コミュニケーション効果についての研究, *土木計画学研究・講演集*, Vol.52, 2015.

川端祐一郎, 高橋祐貴, 宮川愛由, 藤井聡: 物語志向性尺度の開発, *日本心理学会*, Vol.79, 2015.

[http://www.myschedule.jp/jpa2015/search/detail\\_program/id:1234](http://www.myschedule.jp/jpa2015/search/detail_program/id:1234)

沼尻了俊, 宮川愛由, 藤井聡: 物語が経済政策に対する受容意識とその規定因に及ぼす影響に関する実証的研究, *土木学会論文集 F4 (建設マネジメント)*, Vol.72, No.4, pp43-54, 2016. 査読有

[https://www.jstage.jst.go.jp/article/jscejcm/72/4/72\\_I\\_43/article-char/ja/](https://www.jstage.jst.go.jp/article/jscejcm/72/4/72_I_43/article-char/ja/) / DOI: 10.2208/jscejcm.72.I\_43

川端祐一郎, 浅井健司, 宮川愛由, 藤井聡: 物語型コミュニケーションが公共政策に関する態度に与える影響の研究, *土木学会論文集 D3 (土木計画学)*, Vol.72, No.5, pp213-230, 2016. 査読有

[https://www.jstage.jst.go.jp/article/jscejipm/72/5/72\\_I\\_213/article-char/ja/](https://www.jstage.jst.go.jp/article/jscejipm/72/5/72_I_213/article-char/ja/) / DOI: 10.2208/jscejipm.72.I\_213

佐藤翔紀, 高橋祐貴, 川端祐一郎, 宮川愛由, 藤井聡: 地方自治体の防災政策の参照実態に関する基礎調査, *土木計画学研究・講演集*, Vol.53, 2016.

### [学会発表](計 6 件)

高橋祐貴, 川端祐一郎, 宮川愛由, 藤井聡: 政策情報の物語化が受け手の態度受容に与える効果に関する実証的研究, 第51回土木計画学研究発表会, 2015.

高橋祐貴, 川端祐一郎, 宮川愛由, 藤井聡: 政策情報の物語化が受け手の態度受

容に与える効果に関する実証的研究, 平成27年度土木学会全国大会 第70回年次学術講演会, 2015.

高橋祐貴, 川端祐一郎, 宮川愛由, 藤井聡: 物語志向性を考慮した公共政策における物語型コミュニケーション効果についての研究, 第52回土木計画学研究発表会, 2015.

川端祐一郎, 高橋祐貴, 宮川愛由, 藤井聡: 物語志向性尺度の開発, *日本心理学会*第79回大会, 2015.

沼尻了俊, 宮川愛由, 藤井聡: 物語が経済政策に対する受容意識とその規定因に及ぼす影響に関する実証的研究, 第34回建設マネジメント問題に関する研究発表会・討論会, 2016.

佐藤翔紀, 高橋祐貴, 川端祐一郎, 宮川愛由, 藤井聡: 地方自治体の防災政策の参照実態に関する基礎調査, 第53回土木計画学研究発表会, 2016.

### [図書](計 0 件)

### [産業財産権]

出願状況(計 0 件)

取得状況(計 0 件)

### [その他]

ホームページ等

<http://trans.kuciv.kyoto-u.ac.jp/tba/member/fujii>

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

藤井 聡 (FUJII, Satoshi)

京都大学・大学院工学研究科・教授

研究者番号: 80252469

### (2) 研究分担者

神田 祐亮 (KANDA, Yusuke)

京都大学・大学院工学研究科・准教授

研究者番号: 60636463

宮川 愛由 (MIYAKAWA, Ayu)

京都大学・大学院工学研究科・助教

研究者番号: 70598193

### (3) 連携研究者

### (4) 研究協力者

( )